

Ⅲ 事業概要

1. 診察状況

当センターでは、精神保健福祉相談・精神科デイケアに係る精神科外来診察を行っている。平成29年度の診察状況は、以下の通りである。

(1) 月別診察件数

月 件数	H29								H30				計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
新規(実人数)	0	3	1	2	0	2	1	3	3	4	2	1	22
再来(延人数)	57	53	63	48	38	46	55	44	46	47	54	48	599
デイケア診察 (延人数)	10	9	4	7	6	3	8	8	3	5	5	0	68
計	67	65	68	57	44	51	64	55	52	56	61	49	689

(2) 新規診察ケース診断別処遇状況(重複有)

診断名 処遇		統合失調症	気分障害	非定型精神病	神経症	てんかん	精神遅滞	精神遅滞以外の発達障害	人格障害	物質関連性障害	器質性精神障害	計
		当所継続	医療		1		3					
カウンセリング					2							2
集団療法												0
デイケア	2		10		3		1					16
他機関紹介	医療機関											0
	保健所											0
	その他											0
終 結					1							2
計		2	12	0	9	0	1	0	0	0	0	24

(3) 診断名・年齢別診察件数

診断名	年 齢							
	10才以下	11-20才	21-30才	31-40才	41-50才	51-60才	60才以上	計
統合失調症		0	4	7	5	5	3	24
気分障害		1	3	9	8	4	2	29
非定型精神病								0
神経症圏	1	4	14	8	7	5	1	40
てんかん				1				1
精神遅滞			3			1		4
精神遅滞以外の発達障害			5		1			6
人格障害						1		1
物質関連性障害					1			1
器質性精神障害								0
計	1	6	29	25	22	16	7	106

(4) 精神保健福祉法に基づく指定医診察件数

	精神保健福祉法根拠条文							計
	22条	23条	24条	25条	26条	26条の2	34条	
件数	0	30	3	0	1	0	1	35

2. 精神科デイケア

(1) デイケアの概況

当センターのデイケアは、昭和 58 年度の開所以来、市内の医療機関から患者紹介を受け実施している。回復途上にある精神障害者が自立した生活が送れるようになることを目的に、生活習慣の確立や社会参加・社会復帰促進のための生活指導や作業指導を実施している。特徴としては、数年で他の社会復帰施設への移行や就労等へのステップアップを目指す目的意識を持った「通過型」である。

精神科に通院治療している概ね 15 歳以上の仙台市民を対象に、平成 23 年度までは、一日 6 時間、週 4 日定員 60 名の大規模「精神科デイ・ケア」のみで実施してきた。平成 18 年の障害者自立支援法施行後は、本市の障害者福祉計画による整備が進み、就労移行支援や就労継続支援（A・B 型）等、日中活動系サービス事業所数の増加やその活動内容の多様化等により、着実に精神障害者の選択の幅が広がってきている。当センターのデイケアでも所外社会体験や SST(生活技能訓練)・心理教育等のプログラム等に力点を置き、在籍しながら次の移行先事業所への重複通所を支援し、着実なステップアップを図ってきた。

通所者の状況として、疾患別人数に変化があり、統合失調症の方の利用者数に比べて、うつ病や強迫性障害、不安障害等神経症圏が増える傾向にある。また、なかなか一日 6 時間から始められない通所者も増えている。平成 24 年度からは一日 3 時間の「ショート・ケア」を取り入れ、少しずつ生活リズムを整え、滞在時間を延長していくなど柔軟なデイケア利用も可能にしたところ通所者延人数が増加した。

うつ病で休職中の方の復職準備性を高める新たなコースとして、平成 22 年 7 月から試行開始し、平成 23 年度からは、定員 10 名・週 2 日（平成 23 年 2 月から）・4 ヶ月間に限定したデイケアとして本格実施した「リワーク準備コース」は、うつ状態を改善し社会参加のための自己回復力を高めるように心理教育や認知行動療法を用い、一定の効果が得られている。

平成 29 年 7 月から平成 30 年 2 月までの期間は大規模改修のため、建物を一時移転してプログラムを実施した。移転に不安を覚える通所者も多かったことから、移転前の地域検索や建物見学を行い、茶話会での不安の共有や個別面接で不安への対処の確認を行った。施設や周辺地域の環境変化・交通手段の変化にも、相談しながら乗り越え、達成感や成長につながった。周辺環境の利点を生かしたプログラム（料理の買い物、余暇活動拡大のための外出）を行ったことにより、一人暮らしへの訓練や公共交通機関利用時の不安・抵抗感の軽減となった。

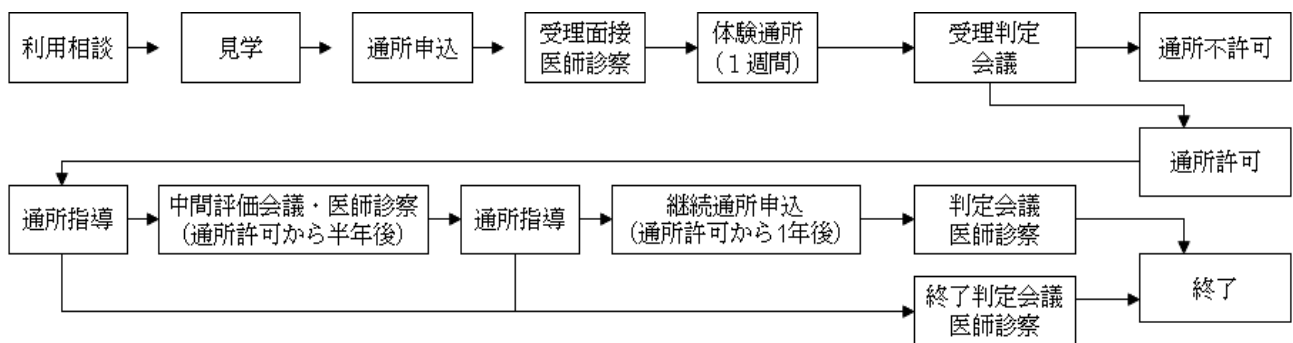
(2) デイケア指導状況

- ・指導期間：平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
- ・指導日数：就労支援・社会参加コース 180 日（毎週月・火・木・金、祝日等除く）
リワーク準備コース 87 日（毎週月・木のみ）
- ・通所状況：年間の通所者延数は 2,024 名（うち、ショートケア通所者延数は 774 名）
「就労支援・社会参加コース」1,746 名 「リワーク準備コース」は 278 名
平均在籍者数は 37 名。定員に対する充足率は 61.7%であった。

平成 29 年度 デイケア通所状況

コース別	通所者実数			新規通所者実数（再掲）			終了者実数（再掲）		
	計	就労支援	リワーク	計	就労支援	リワーク	計	就労支援	リワーク
総 数	60	44	16	15	6	9	20	10	10
男 性	39	28	11	11	5	6	14	7	7
女 性	21	16	5	4	1	3	6	3	3

○デイケア通所者の受理から終了までの流れ



(3) 就労支援・社会参加コースの指導内容

①通所者の特性（再通所者含む 44 名）

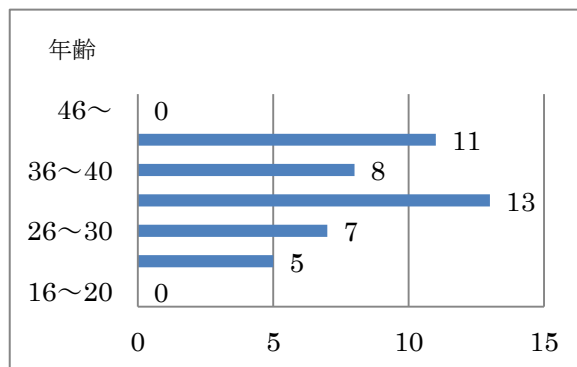
ア. 疾患別分類

統合失調症は 17 名 (38.6%) と最も多く、次に、神経性障害 14 名 (31.8%) が多い。

疾患名	人数
統合失調症	17
うつ病(感情障害)	11
神経症性障害	14
境界性人格障害	1
広汎性発達障害	1
合計	44

イ. 年齢（対象年齢 15 歳～）

平均年齢は 35.1 歳、最年少は 21 歳、最年長は 45 歳である。



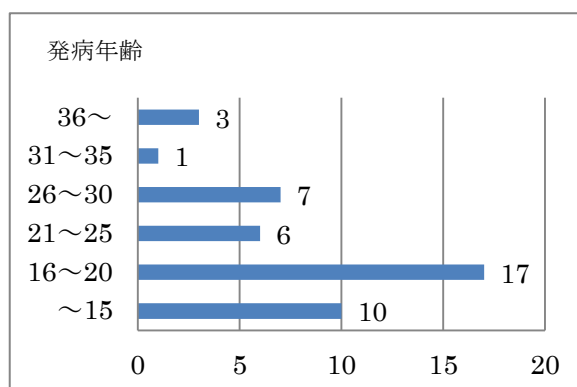
ウ. 利用に至った経路

医療機関からの紹介は 15 名 (34.1%)、インターネットのホームページ、市政だより等を見て自主来所する方が 15 名 (34.1%) 家族・親戚のすすめが 6 名 (13.6%) である。

利用に至った経路	人数
病院・クリニック	15
自主来所	15
家族・親戚のすすめ	6
区役所	4
社会復帰施設等	3
その他	1
合計	44

エ. 発病年齢

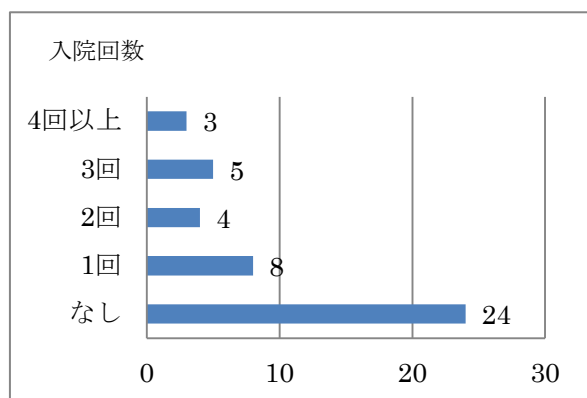
発病平均年齢 20.9 歳で、20 歳までに 27 名 (61.4%) が発病している。



オ. 入院回数

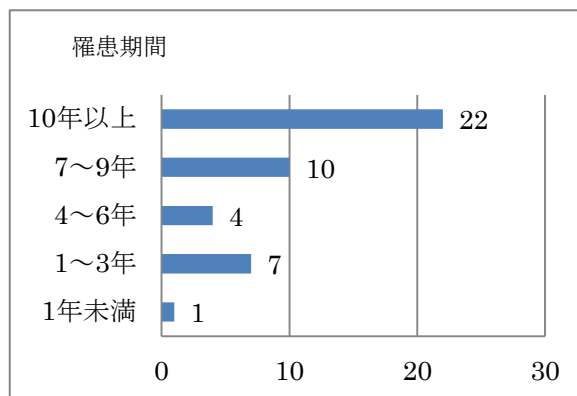
入院歴なし 24 名 (54.5%)

入院歴あり 20 名 (45.5%)



カ. 罹病期間

通所開始まで 10 年以上が 22 名 (50.0%)、7 年～9 年以内の罹病期間が 10 名 (22.7%)、3 年以内が 8 名 (18.2%) となっている。



キ. 学歴

高校卒業が 13 名 (29.5%)、専門学校以上に進学している者は 23 名 (52.3%)、中退 (高校・専門学校・短大・大学・大学院) は 18 名 (40.9%) である。

学 歴	人 数
高校卒	13
高校中退	8
専門学校卒	7
専門学校中退	3
短大卒	1
短大中退	1
大学卒	4
大学中退	3
通信大学中退	1
大学院卒	1
大学院中退	2
合 計	44

ケ. 紹介元

クリニックが 22 名 (50.0%)、病院が 18 名 (40.9%) である。

紹 介 元	人 数
クリニック	22
病 院	18
精神保健福祉センター	4
合 計	44

サ. 家族状況

両親と同居は 27 名 (61.4%)、単身生活者は 10 名 (22.7%) である。

同居家族	人 数
両親(+その他家族)	27(10)
片親(+その他家族)	5(2)
子ども	1
単身	10
その他	1
合 計	44

ク. 保険

国民健康保険が 20 名 (45.5%)、社会保険が 17 名 (38.6%)、生活保護は 5 名 (11.4%) となっている。

保険の種類	人 数
生活保護	5
社保本人	0
社保家族	17
国保本人	5
国保家族	15
共済本人	0
共済家族	2
合 計	44

コ. 精神障害者手帳の取得状況

手帳なしは 18 名 (40.9%)、手帳ありは 26 名 (59.1%)。

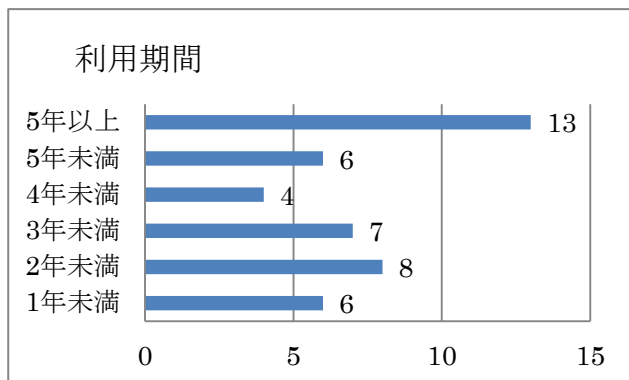
手帳区分	人 数
手帳なし	18
手帳あり	26
1 級	(2)
2 級	(15)
3 級	(9)
合 計	44

シ. 居住地

住 居 地	人 数
青葉区	20
宮城野区	6
若林区	4
太白区	8
泉区	6
合 計	44

ス. 利用期間

5年以上利用している通所者は13名(29.5%)と最も多く、1年未満が6名(13.6%)である。平均利用期間は3年7ヶ月である。



セ. 終了状況(所属及び在籍期間)

終了者は44名中12名(27.3%)である。終了時の所属として社会復帰群は12名中5名(41.7%)であった。体調悪化で入院となった利用者も1名(8.3%)いた。平均在籍期間は2年8ヶ月となっている。

終了時の所属及び在籍期間		在籍期間				計
		1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3年以上	
社会復帰	障害者雇用				1	1
	就労継続支援B型			1		1
	就労移行支援			2		2
	アルバイト		1			1
他のデイケア移行			1	1	1	3
療養専念	通院		1			1
	入院		1			1
在宅	年齢制限		1			1
	通所意志喪失		1			1
合計		0	6	4	2	12

②週間プログラム

プログラムは週単位を基本とし、定期的に講師を招くもの、職員が企画・運営するもの、メンバーの自主性に任せるもので構成した内容を実施している。

当デイケアは、集団プログラムだけではなく、個別の支援にも力を入れており、デイケア終了後を見据えて、地域の社会資源の見学同行、就労訓練先への事業所訪問なども行っている。また必要に応じて担当職員が家庭訪問を実施している。

メンバーの個々の状況の違いに応じて支援できるよう、1～2週に1回担当職員との面接をプログラムに組み込んでいる。様々な不安や焦り、悩み等を聞き、メンバーを取り巻く状況を把握し、デイケア利用の目的や目標の確認・修正及び将来の方向性を一緒に考える時間としている。この枠に限らず必要に応じて臨時面接も実施しており、今年度は特に移転前後の不安や心配なことを確認し、個別フォローを丁寧に行った。

診察は、新規通所受理時、終了時、通所開始後半年ごと（1年の利用期間中6ヶ月目、12ヶ月目）に実施している。主に医療情報を得るために実施しており、それらを基に医学的アプローチやデイケア効果等の検討や評価を行っている。他に、緊急時や必要に応じて臨時の診察も実施している。

<平成 29 年度週間プログラム>

	月	火	水	木	金
午前	クラブ活動 ・個別創作	料理 (月1回) / 面接・診察 自遊時間		クラブ活動 ・共同創作 ・サークル活動	クラブ活動 ・スポーツ ・フリー
午後	ステップアップ 講座 / ゼミナール	ここまるタイム / 音楽 (月1回)		合同スポーツ / SST (生活技能訓練)	セルフサポート塾 / ゼミナール

<各プログラム内容詳細と状況>

心理教育 セルフサポート塾 (全 24 回)	
<ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：8名 ・担当職員：4名 ・外部講師：なし <p>* 講話、ワークシート、グループワークなど、多様な形式で行った。</p>	<p>◎ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理教育を通して病気との向き合い方の獲得や自己理解を深める。 ・グループワークを通して、メンバー同士の交流、相互理解を図る。 <p>◎内容および活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患の理解や受容、付き合い方について、精神科医を交えて考えていくことはもちろん、リカバリーの視点を持って自身のポジティブな側面に目を向けたり、ストレスマネジメントやアンガーマネジメント、認知行動療法を取り入れて、日常生活をよりよく過ごすための工夫の仕方について実生活を例に考えた。 ・他メンバーの考えに触れることで、同じ悩みを持つ人がいることの安心感、また視野の広がりを感じることができるとの感想が聞かれた。

実施日	プログラム内容
4/14	オリエンテーション
5/26	金サポ（メンバーが司会・書記を担い相談し合う場）
5/29	あなたの強み・魅力を再発見！～リカバリーを目指して～
6/2	あなたの強み・魅力を再発見！～あなたのトリセツ～
6/9	あなたの強み・魅力を再発見！～自分の趣味・特技紹介～
6/16	やめられない…止まらない…～身近に潜む依存の罠～
7/14	精神科医との座談会～精神疾患との付き合い方～
7/28	アサーション①～アサーションって何だろう？～
8/18	アサーション②～練習してみよう～
9/1	アサーション③～練習とまとめ～
9/8	精神科医との座談会～睡眠について考えよう～
9/22	金サポ
9/29	不安や焦りとの向き合い方
10/13	前期振り返り
11/10	金サポ
11/21	認知行動療法①～CBTって何だろう？～
12/1	認知行動療法②～CBTを体験してみよう～
1/5	アンガーマネジメント①
1/19	アンガーマネジメント②
2/2	精神科医との座談会
2/16	ストレスコーピング①
2/23	ストレスコーピング②
3/16	後期振り返り

心理教育 SST（Social Skills Training：生活技能訓練）（全 20 回）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平均参加人数：5 名 ・ 担当職員：2 名 ・ 外部講師：なし <p>* 移転に伴い例年より参加者が減り、集団の効果が得られにくい回は、SSTに限らず内容を変更して実施した。</p>	<p>◎ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な場面設定における会話や対応の仕方を身につけ、実際の場面に活かしていく。 <p>◎内容および活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウォーミングアップ（ランキング当て、ジェスチャーゲーム等多様なものを追加）、「天気気分調べ（今の気分を天気で表す）」等で、一人一言話すことにより、グループの緊張感を緩和し発言しやすい雰囲気作りを実施した。 ・ 「コミュニケーションの時間」と捉え、SST だけでなく、コミュニケーションゲーム、ジョブリハーサル等の課題も行い、好評だった。

・SSTでは、従来の「基本訓練モデル」だけでなく「ステップ・バイ・ステップ」方式を取り入れた。メンバーの要望の多いスキルや獲得して欲しいスキルを提示して、ステップを踏んで身につける方式に取り組み、具体的でわかりやすいという感想が多く聞かれた。

実施日	プログラム内容
4/13	オリエンテーション スキルチェック表の記入、短期・長期目標の設定
4/27	SST「発言したい人が緊張している時のほぐし方」
5/25	SST「人と意見が違ふときの伝え方」
6/8	「遊びに誘われた際のあいまいな断り方」①（問題解決技法）
6/22	「遊びに誘われた際のあいまいな断り方」②（問題解決技法）
7/13	「宿泊訓練に向けて心配なこと」 *睡眠、気疲れなどについて解決策を出し合う
7/26	ジョブリハーサル「ジムのスケジュール作成」 *コミュニケーションを取りながら課題をクリアする
8/10	自分を良く知ることにより良い自己表現を目指す *「20の私」を通して自己理解を深める
8/24	コミュニケーションゲーム「ラーメン屋の座席」 *情報共有、相談してコミュニケーションを取り合う
9/7	SST「診察で“最近どう？”と聞かれた時の報告の仕方」
9/21	ジョブリハーサル「職員旅行の行き先作成」 *情報共有をし合って課題を発見してクリアする
10/12	SST デイケア祭練習「帰るお客さんへの声のかけ方」
11/2	前期振り返り
11/30	SST「助けを求める」
12/21	SST「初めて会う人や親しくない人と会話する」
1/11	SST「話し合っ折り返す」
1/25	ダイヤモンドランキング 「就職においてあなたの大切なものは？」
2/8	SST「口論はせずに相手の意見に同意せずにいる」
2/22	SST「謝る」
3/8	コミュニケーションゲーム「やすらぎビレッジ」 *情報共有、相談してコミュニケーションを取り合う
3/16	後期振り返り

ステップアップ講座（全 21 回）

- ・平均参加人数：7名
- ・担当職員：3名
- ・外部講師：あり

◎ねらい

- ・将来の生活をイメージし、より良い社会生活を送るために必要な知識や技術を身に付ける。

・グループワークを通して、メンバー同士の交流を図る。

◎内容および活動概要

・生活、余暇、就労に関して、グループワークや講話、体験等様々な形態で活動を実施した。

・一時移転により、施設周辺に様々な社会資源ができて環境が変わったことから、外出を増やし、施設や公共交通機関の利用の訓練や地域を知る機会とした。

実施日	プログラム内容
4月10日	ステップアップするために ～スキルチェックをしてみよう～
4月17日	格付けチェック！あなたのマナーは大丈夫？
5月8日	お金の使い方を考えよう①
5月22日	お金の使い方を考えよう②
6月5日	移転先に見学に行く
6月19日	将来の自分をイメージしてみよう ～合同説明会に向けて～
7月7日	合同説明会に行こう（外出）
7月10日	合同説明会を振り返ろう
8月7日	余暇活動を広げよう ～計画編～
8月28日	余暇活動を広げよう ～外出編～（外出）
9月11日	社会資源について考える～ここまるくんの一人暮らし計画をサポートしよう！～
9月25日	せんだい安心ナビを使ってみよう！ ～災害時いざという時に役立つこと～
10月2日	先輩講話（ピアサポーター2名の講話）
10月13日	前期の振り返りと後期に向けて
11月13日	自立するということとは？～洗濯物の干し方～
12月4日	公共交通機関を利用してみよう① ～ランチツアー計画編～
12月11日	公共交通機関を利用してみよう① ～ランチツアー実践編～（外出）
1月22日	公共交通機関を利用してみよう② ～普段乗らないバスを利用して～（外出）
1月29日	宮城障害者職業センターに行ってみよう ～利用方法について～（外出）
2月13日	事業所に見学に行こう（外出）
2月19日	先輩講話（様々な職種で働く3名の講話）
3月20日	後期振り返り

ゼミナール（全17回）

<ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：7名 ・担当職員：3名 ・外部講師：あり 	<p>◎ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リラクゼーションやストレス解消、体力作りや健康維持の方法に関する知識・技術を得て、ストレス対処や趣味的活動の幅を広げる。 <p>◎内容および活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リラクゼーション、ストレス発散、リフレッシュを目的としたもの、体力づくりや栄養講座等の健康維持・増進を目的としたものを万遍なく取り入れ、幅広い内容を企画した。 ・一時移転による活動場所や従来プログラム内容の変更があつてメンバーに負担が生じたため、リフレッシュやストレス発散の機会としてゼミナールの実施回数を増やした（前年度は13回）。 ・体力の向上のため年数回健康増進センターから講師を招き、日常生活での実践を目的に運動体験とグループワークを設けた。スポーツのプログラムで定期的に振り返りを行い、運動習慣について意識づけを行った。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">実施日</th> <th style="text-align: center;">プログラム内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">4月24日</td><td>体力測定①</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">5月1日</td><td>アニマルセラピー（リワーク合同）</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">5月19日</td><td>日常に運動を取り入れよう①</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">6月12日</td><td>パーカッション体験</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">6月26日</td><td>音楽リハビリ</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">8月21日</td><td>タオライアー</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">8月25日</td><td>カラーセミナー</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">9月15日</td><td>ハーバルセラピーによる癒し</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">10月6日</td><td>体力測定②</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">11月6日</td><td>ボクササイズ（リワーク合同）</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">12月8日</td><td>日常に運動を取り入れよう②</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1月12日</td><td>太極拳</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1月26日</td><td>栄養講座</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2月9日</td><td>タオライアー</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">3月9日</td><td>体力測定③ 日常に運動を取り入れよう③</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">3月12日</td><td>ヨガ（リワーク合同）</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">3月20日</td><td>振り返り</td></tr> </tbody> </table>	実施日	プログラム内容	4月24日	体力測定①	5月1日	アニマルセラピー（リワーク合同）	5月19日	日常に運動を取り入れよう①	6月12日	パーカッション体験	6月26日	音楽リハビリ	8月21日	タオライアー	8月25日	カラーセミナー	9月15日	ハーバルセラピーによる癒し	10月6日	体力測定②	11月6日	ボクササイズ（リワーク合同）	12月8日	日常に運動を取り入れよう②	1月12日	太極拳	1月26日	栄養講座	2月9日	タオライアー	3月9日	体力測定③ 日常に運動を取り入れよう③	3月12日	ヨガ（リワーク合同）	3月20日	振り返り
実施日	プログラム内容																																				
4月24日	体力測定①																																				
5月1日	アニマルセラピー（リワーク合同）																																				
5月19日	日常に運動を取り入れよう①																																				
6月12日	パーカッション体験																																				
6月26日	音楽リハビリ																																				
8月21日	タオライアー																																				
8月25日	カラーセミナー																																				
9月15日	ハーバルセラピーによる癒し																																				
10月6日	体力測定②																																				
11月6日	ボクササイズ（リワーク合同）																																				
12月8日	日常に運動を取り入れよう②																																				
1月12日	太極拳																																				
1月26日	栄養講座																																				
2月9日	タオライアー																																				
3月9日	体力測定③ 日常に運動を取り入れよう③																																				
3月12日	ヨガ（リワーク合同）																																				
3月20日	振り返り																																				

クラブ活動

<p>※一時移転により、 近隣の市民センター</p>	<p>◎ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中力や持続力、生活技能を高め、自信につなげる。 ・対人交流を通して、協調性、仲間意識、自発性の向上を図る。
--------------------------------	--

<p>で実施した回もあり。</p> <p><個別創作></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：7名 ・担当職員：1名 ・外部講師：あり <p><共同創作></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：5名 ・担当職員：2名 ・外部講師：なし <p><サークル活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：6名 ・担当職員：1～2名 ・外部講師：なし <p><スポーツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：5名 ・担当職員：2名 ・外部講師：なし <p><合同スポーツ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：10名 (就労支援 6～8名 リワーク 2～3名) ・担当職員：2名 ・外部講師：なし <p><料理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：6名 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムに継続して取り組むことで、達成感や充実感を得る。 ・様々な活動を通して、趣味的活動の幅を広げる。 <p>◎内容および活動の概要</p> <p><個別創作（週1回。全32回）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールアートやプラバン作り、羊毛を使った創作など各々が希望する作業に分かれて活動を行った。 ・希望する作業を見つけれないメンバーは講師の声掛けや手本を参考に作業に取り組むことができていた。 ・黙々と作業を行うメンバーが多く、集中力を養う機会となった。 <p><共同創作（隔週1回。全18回）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みたい活動をメンバーより募り、ちぎり絵、プログラム紹介、カレンダー、オリジナルTシャツ作りに取り組んだ。 ・様々なアイデアの発見、また話し合いながら協力して作業する時間となっていた。 <p><サークル（隔週1回。全18回）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みたい活動をメンバーより募り、半期ごとに継続して取り組んだ。活動は、パソコン、絵画、習字・ペン字を実施した。 ・作業に集中する時間、メンバーと交流する時間がバランス良く生じ、メリハリのある時間になっていた。 <p><スポーツ（隔週1回。全16回）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・所内でのスポーツのため、軽スポーツを中心に実施した。 ・前期は、前半ストレッチ、後半スポーツ（ダーツ、輪投げ、ボッチャ、卓球、ゲートボール、卓球バレー等をローテーション）を行った。 ・後期は、スポーツ中心を希望する声があり、各スポーツをローテーションで組み、その中にストレッチ・ヨガを組み込んで実施した。 ・運動が苦手な人も参加しやすく、運動不足解消の機会、スポーツを通して人との交流を楽しむ機会になった。 <p><合同スポーツ（隔週1回。全20回）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民センター体育館を利用し、広い空間でスポーツを実施した。 ・「就労支援・社会参加コース」「リワーク準備コース」の2コース合同で行った。 ・前半は、卓球、バドミントン、バスケットボール等、各自やりたい種目に別れて行った。後半は、全員合同で取り組み、バレーボール、ボッチャ、卓球バレー等を行った。 ・互いに声をかけ合い、教え協力し合い、コースを越えて交流する場面が見られた。特に、バレーボール大会に向けて一丸となって練習し、一体感や達成感が生まれていた。 <p><料理（月1回。全9回）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・偶数月は講師（管理栄養士）が入り、作成された献立に沿って料理を作った。
--	---

<ul style="list-style-type: none"> ・担当職員：3名 ・外部講師：あり (隔月、管理栄養士) <p><音楽></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：6名 ・担当職員：2名 ・外部講師：あり <p><季節のお茶会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数：7名 ・担当職員：2名 ・外部講師：あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・奇数月は予めメンバー全員で決めたテーマ(旬の食材を使う等)に沿って献立作りから行った。 <p><音楽(月1回。全10回)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師の回は、発声練習や合唱、音楽の知識を学び、ゲーム感覚での作詞・作曲体験などを行った。 ・フリーの回は、好きな音楽紹介やDVD観賞、ハンドベルやウクレレ体験など、幅広く音楽に親しめる内容とした。発声に抵抗のあるメンバーも、所内での音楽には意欲的に参加することができていた。 <p><季節のお茶会(全4回)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移転先では和室はなかったが、ヨガマットに毛氈を引いて盆点前を行ったり、椅子を用いたりと臨機応変に実施した。戸惑いを感じながらも、新鮮味を持って取り組むメンバーが多かった。 ・お茶席の緊張感ある雰囲気苦手意識を持って参加できないメンバーがいたため、終了時にリラックスした雰囲気で茶道に触れてもらう時間を設け入れることができ、次回の参加につなげた。
<p>ここまるタイム(ミーティング)<全27回></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数:10名 ・担当職員：3名 ・外部講師：なし 	<p>◎ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事の企画運営をメンバー自身が担うことで自発性や達成感を得る。 ・行事の話し合いを通して、コミュニケーション能力の向上を目指す。 <p>◎内容および活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各行事に向けた話し合い、作業、必要な物品の買い出し等を行った。 ・主張の仕方や異なる意見の折り合い方を学ぶ機会となった。 ・所内行事はメンバーの中から実行委員を募り、話し合いの進行、書記などを担うことで、主体的に活動できていた。
<p>自遊時間</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・平均参加人数:10名 ・担当職員：1名 ・外部講師：なし 	<p>◎ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診察・面接の待ち時間の過ごし方を自ら計画し、家での余暇活動を含め、自主的に過ごせるようになる。 <p>◎内容及び活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書、談笑、音楽鑑賞、絵画などが多くみられた。職員との談笑、数名と一緒にゲームやものづくりをすることもあった。 ・取り組むことを決められないメンバーにはスタッフが介入してフォローした。 ・毎回、取り組む内容と感想を記入してもらい、その日の活動の振り返りを行った。

③年間行事

概ね月1回の頻度で実施し、日常のデイケア活動に彩りを添えているのが年間行事である。メンバーの中には、家族や友人と出掛ける機会が少ない者もいて、日頃できないことが体験できるよい機会であるため、行事参加を楽しみにしている者も多い。年間行事の運営にあたっては、メンバーの主体性を大切にしながら、企画から携わり各自に役割を担ってもらい、役割遂行による達成感の獲得や、自己肯定感の向上につながるよう工夫しながら進めている。

<平成29年度年間行事実施状況>

開催日	行事名	内容	参加人数
H29年 5月12日	メンタルヘルス スポーツ大会	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市内のデイケアや福祉関連施設が集まり、スポーツを通して交流を図る毎年恒例の行事。 ・全5種目の競技のうち、当デイケアは、ボッチャ、卓球、ソフトボール、ソフトバレーボールに出場した。 ・ソフトボールとソフトバレーボールは他施設との合同チームだったが、抵抗少なく交流でき、良いプレーを教えてもらう等、良い経験になっていた。 	13
7月20日 ～ 7月21日	宿泊訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・「余裕のあるスケジュール」「体験・体感」をテーマに、大崎・やくらい方面へ行った。 ・1日目は感覚ミュージアム、中鉢美術館を見学し、やくらいコテージに宿泊した。2日目はやくらいガーデン、間欠泉、地獄谷遊歩道を見学した。 ・昨年度の踏襲とせず、企画段階から改めてメンバーと話し合いを重ねて新しい試みを入れ、当日は全員に役割を担ってもらい、各々責任を持って取り組んでいた。参加前は不安を抱いていたメンバーも2日間やり遂げたことで達成感や自信の回復につながっていた。 	8
10月27日	デイケア祭	<ul style="list-style-type: none"> ・デイケア活動の成果を発表する場、メンバー同士が協力し合い一体感や達成感を得る機会、地域の方への普及・啓発の機会として毎年開催している。移転先での実施であり、工夫して進めた。 ・お茶席やものづくりのプログラム体験、バザー、ゲーム大会を実施し、当センターの紹介コーナーとして相談係のパネル展示やアルコールパッチテストも行った。来場者数は174名と盛大な祭となり、メンバーも無理の無いよう適宜休憩を取りながら臨機応変に活動することができていた。 	14

11月17日	仙台市精神障害者バレーボール大会	<ul style="list-style-type: none"> ・合同スポーツやスポーツ協会主催の練習会で練習を重ね、当日に臨んだ。緊張感のある場面では、キャプテンを中心に声を掛け合い、気持ちの切り替えができていた。4チームの総当たり戦で惜しくも勝利は逃したものの、念願の1セットを取ることができ、達成感を得られていた。振り返りでは次年度に向けた練習メニューの提案もあり、意気込みが感じられた。 	8
12月15日	野外活動	<ul style="list-style-type: none"> ・バスで宮城県石巻方面に行き、石ノ森萬画館、いしのまき元気いちば、サン・ファン館を見学した。 ・行き先決め、調べ作業等、企画段階からメンバー主体で実施し、当日は各メンバーが、バスの司会、点呼、車内ゲーム進行等の役割を担って取り組んだ。 ・集団行動やバス移動が苦手なメンバーにとっては、不安を抱えつつも乗り越えられたことが自信の回復に役立っていた。 	13
12月25日	忘年会	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にメンバーと話し合い、内容を決定した。 ・午前中は室内ゲーム、昼食は近隣の飲食店にて外食、午後はプレゼント交換、ケーキを食べながらDVD観賞。 ・昨年度の反省を踏まえ、プレゼント交換のルールを共有して実施するなど、工夫した。無理のない活動量で、1年間の労をねぎらい、楽しめていた。近隣飲食店を周り移転先の近隣施設を知る機会ともなった。 	12
H30年 1月4日	新年会	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員メンバーを中心に話し合い、内容を決定した。 ・午前中は東照宮へ初詣、午後は所内で書初めを行い、抱負を語った。新年会らしい活動を行い、季節感を抱き、新年度スタートの意気込みが感じられた。 	9
3月26日	春季パーティー	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員メンバーを中心に話し合いを進めた。 ・一時移転して戻ってきた後の開催に伴い、「新たなスタート」をテーマに準備した。昼食づくり（ちらし寿司、豚汁等）、写真スライド上映（メンバーの解説つき）、外部講師への感謝状、上棟式（紅白餅・駄菓子まき）、記念撮影を行った。 ・事前準備から当日まで、メンバーで協力して行うことができ、達成感を感じていた。今年度は家族の招待（6名参加）、上棟式など初めての試みにも挑戦し、不安がありながらも成功でき、より充実感を得ていた。 	14

④家族支援

ア. 家族懇談会の実施

◎ねらい

- ・病気及び障害の知識・理解を深めるための学習の場を提供する。
- ・当所と家族との間で情報交換を行い、今後の本人の関わり方について考えていく。
- ・家族同士の交流を図り、相互支援の場とする。

◎実施状況

- ・メンバーの家族を対象に、奇数月に実施した。
- ・当所のメンバーの多くは家族と同居している。家族支援は、メンバーの社会復帰のための基盤固めであり、家族が病気や障害に関して理解を深めることや、家族との情報交換は、メンバーの治療にとっても欠かせないものである。また、単身生活のメンバーであっても、家族の支持と理解を得ることは、治療をすすめる上で非常に意味がある。
- ・家族から担当との相談を希望する声が多く、毎回終了後に希望の家族と担当スタッフとの個別面談を実施した。他の家族と話したいとの要望もあり、今年度は年3回「グループ懇談」として、家族同士の情報・意見交換の機会を設けた。講話の回も、講話後に質疑応答や意見交換の時間を設け、互いに交流できるように工夫した。

<家族懇談会実施状況>

	実施日	内容	参加人数
1	H29年 5月24日	今年度担当職員との顔合わせ、グループ懇談	9名
2	7月26日	移転先の施設見学会 相談支援事業所ぴあはうす職員による講話 「社会資源を学ぶ、家族のかかわり方を考える ～様々な当事者の方の例を通して～」	6名
3	9月27日	就労継続支援B型事業所 喫茶ルーム・ぱれったの見学 喫茶スペースでのグループ懇談	6名
4	11月22日	林所長による講話 「“自分らしい生活”のために ～デイケアの効果と御家族の役割～」	7名
5	H30年 1月24日	デイケア終了生からの体験談	4名
6	3月14日	改修後の施設見学会、グループ懇談	9名

イ. 家族懇談会だよりの発行

前回の家族懇談会の実施内容及び参加状況の報告、次回の家族懇談会の案内、メンバーの活動報告・紹介などを掲載し、2ヶ月に1回発行した。

⑤アフターケア（OB支援）

相談件数内訳（延べ件数）

	相談 延数	相談内容（重複あり）					
		生活報告	病気・薬	対人関係	再通所	仕事	その他
来 所	6	2	0	1	0	2	1
電 話	49	28	3	2	0	10	6
計	55	30	3	3	0	12	7

- ・デイケア終了後も電話と面接で相談に応じている。
- ・実人数は 12 名。相談するメンバーは固定している傾向があり、一人が複数回相談するというケースが多かった。中には一人で 10 回以上相談する人もいて、単身者で誰かと繋がってほしいという状況が推測される。
- ・終了後 1 年以内の人からは仕事・通所の相談が多く、電話して安心することで継続できている人が多い。
- ・全体としても、傾聴や対処方法の助言等の電話相談によって安心する内容がほとんどで、積極的介入が必要なケースはなかった。

⑥デイケア通所者についてのケース検討会

◎ねらい

- ・ケースの理解を深めデイケア指導に活かす。
- ・職員のスキルアップをはかる。

◎実施状況

- ・2ヶ月に1回、2時間枠で実施した。
- ・今年度は移転に伴ってプログラムの変更等があったため、年度中間の 10 月にメンバー状況、プログラム運営について振り返りの時間を設けた。
- ・前年度に引き続き、個別ケース検討だけでなく集団力動やプログラムについても検討し、デイケアとして個々人にどう働きかけていけばいいのかといった点も話し合い、関わりの視野を広げることができた。
- ・年度末にレビューを実施し、支援方針の確認と今後の方向性を共有した。

<ケース検討会実施状況>

開催日	内 容
H29 年 4 月 26 日	デイケアを集団としてとらえた場合のメンバー間の力動について考える
6 月 21 日	個別ケース検討
8 月 23 日	個別ケース検討
10 月 25 日	デイケア平成 29 年度中間の振り返り
12 月 20 日	来年度のプログラムについて話し合い
H30 年 2 月 21 日	ケースレビュー

(4) リワーク準備コースの指導内容

ア 通所者の特性

ア. 疾患別分類

うつ病の方が69%を占めている。

疾患名	人数
うつ病	11
適応障害	4
双極性感情障害	1
合計	16

ウ. 通所者の状況

休職者を対象者としているが、一部離職者の受け入れも行なっている。なお、今年度は離職者の利用はない。

職種		人数	
休職者	民間	看護職	2
		事務職	5
		技術職	1
		心理職	1
		営業職	1
	公務員	警察官	1
		教員	4
		自衛官	1
	合計		16

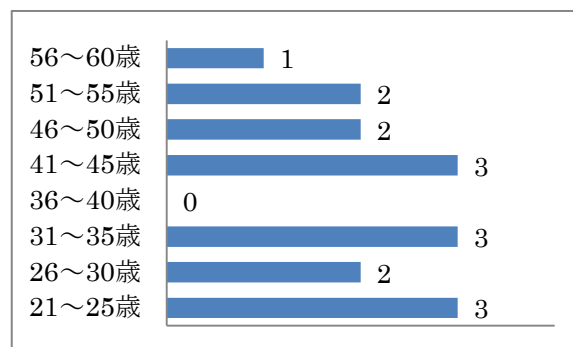
オ. 学歴

大卒者が10名(63%)である。

学歴	人数
大学卒	10
短大・高等専門学校卒	1
専門学校卒	1
大学院卒	2
大学中退	2
合計	16

イ. 年齢

平均年齢は38.6歳。最年少は24歳、最年長は58歳である。



エ. 利用に至った経路

利用に至った経路	人数
医療機関	7
インターネット	3
市政だより	2
区役所	1
家族の勧め	1
職場の勧め	2
合計	16

カ. 紹介元医療機関

紹介元	人数
公的病院	1
民間病院	7
クリニック	8
合計	16

キ. 同居家族状況

配偶者・子どもと同居しているケースと単身者が多い。

同居家族状況	人数
単身	5
親	2
兄弟姉妹	1
配偶者	3
配偶者・子	5
合計	16

ク. 終了時状況

在籍者 16 名のうち年度内に終了したものは 10 名である。終了時休職中 7 名については、終了後 6 ヶ月以内に全員が復職している。

終了時状況	人数
ならし勤務	2
休職継続	7
離職	1
合計	10

②プログラム

リワーク準備コースでは 4 ヶ月（32 回）を 1 クールとし、年間 3 クールプログラムを実施した。

※回数は 1 クールの回数

プログラム名	内容
心理教育 (全 4 回)	精神科医の講話を中心に、うつ病への理解を深め病気への対処を学ぶ。今年度は精神科医 1 名が月 1 回実施した。内容はリワーク準備コースの通所目的の確認（毎回）と「うつ病について」「薬の効果と副作用」「うつによって起こる考え」「不調になった時のサインと症状」となっている。
認知行動療法 (全 12 回)	職場でのネガティブなエピソードを認知モデルに沿ってアセスメントし、問題の整理と改善するための目標を設定する。目標に合わせて「認知再構成法」「問題解決技法」を実施する。「認知再構成法」では考え方の幅を広げ、「問題解決技法」で問題解決法の考え方、手順を取得する。前半は個人作業、後半は発表と意見交換を行う。
復職プラン作り (全 4 回)	復職準備チェックシートの記入及び報告とリハビリプランを作成する。リハビリプランは通所期間に応じた内容となり、経過の振り返り、職場復帰に向けた再発予防対策のまとめとなっている。前半はチェックシートの記入・プラン作成、後半はプランを発表し意見交換を行う。
コミュニケーション (全 4 回)	自分の気持ちや意見を上手に人に伝え、人とのコミュニケーションをより良いものにする方法をロールプレイなどを通して学ぶ。「アサーションの基礎」「傾聴」「DESC 法」「エゴグラム」など
セルフケア (全 4 回)	これまでの経験や経過から、自身にとってのストレスについて振り返り、その対処法や今後の体調管理、より良い働き方について考える。前半は個人作業、後半はグループワークを行う。

	<p>①「活動記録表について」</p> <p>②「ライフチャート作成」</p> <p>③「ストレスリストを作ろう（ライフチャートの振り返り）」</p> <p>④「働き方を振り返ろう」</p> <p>⑤「復職時のサポート体制」</p>
グループワーク /ウォーキング (全4回)	前半はメンバーから話題提供されたテーマに沿った意見交換、後半は施設周辺の散策や、室内で軽運動を行う。今年度は移転による周辺環境の違いや利用人数が少ない時期があったため、グループワークの代わりとしてジョブリハーサル「カード情報収集作業」の実施や、ウォーキング・軽運動のみ実施する等利用者の状況に合わせ適宜プログラムを変更している。
職場復帰の準備 について (全1回)	外部講師（職業センターカウンセラー）による講話。復職に対する企業側の考え方や、復職に向け職場と話し合いを行う際の心構えについて聞く。
リラクゼーション (全2回)	スタッフによる講話やリラクセス法の体験と、外部講師によるヨガをそれぞれ1回ずつ行う。
新聞プレゼン (準備全2回) (発表全2回)	準備では関心のある新聞記事を要約し、感想・意見のまとめを個別作業で行い、発表では作成した記事のプレゼンテーションと意見交換を行った。準備と発表を1セットとし、2セット実施した。
OB 講話 (全1回)	リワーク準備コース OB による復職体験談を聞き、スムーズな復職活動に役立てることを目的に実施。前半は OB の講話、後半は OB と在籍者とのグループワークを行う。
書道 (全4回)	集中力を養うことを目的に外部講師の指導のもと行う。
合同スポーツ (隔週)	就労支援・社会参加コースと合同で実施。前半は個人毎にやりたい種目（卓球、バドミントン、バスケットボール等）を行った。後半は参加者全員でバレーボール、ボッチャ、卓球バレー等を行った。
体力作り (全1回)	外部講師（運動指導員）に、日常生活の中で継続して実践できる運動を指導してもらう。今年度は依頼先の都合により年1回の実施となり、グループワーク/ウォーキングの時間に振り替えている。
食事と栄養 (全1回)	外部講師（管理栄養士）による講話。日常生活に必要な栄養素や、普段の食事で意識する点、手軽に野菜を取り入れる方法などについて聞く。
フリー (全2回)	メンバーの希望により活動内容を決定し実施する。

*その他

- ・個別面接：月1回程度、プログラム終了後に行なう。現在の状態の確認と復職に向けて、今後の課題などについて担当スタッフと話し合う。
- ・週間活動記録表：認知行動療法の一環として毎日記入し、ミーティング時に報告を行う。

③リワーク準備コース OB 支援

ア. リワーク準備コース OB 会

終了後の状況把握と、終了者同士の交流の場として「OB会」を開催した。年2回、リワーク終了後1年以内の方の他、在籍者にも声掛けしている。

<実施状況>

- 1.平成29年5月19日 時間：18時30分～20時30分
会場：青葉区中央市民センター
参加者数：OB・OG 10名、在籍者4名 計14名
- 2.平成29年11月17日 時間：18時30分～20時30分
会場：青葉区中央市民センター
参加者数：OB・OG 7名、在籍者2名 計9名

イ. OB 面接

終了者の復職後の定着支援を主として、電話と直接来所などで相談に応じている。

ウ. OB へのアンケート実施

終了後の状況把握と、終了者がアンケート調査を機に現在の生活、および心身の状態を振り返り、問題の早期発見、早期対処をし再発予防につながることを目的にアンケートを実施している。今年度は61名に送付し37名(61%)より回答があった。

対象者はリワーク準備コース終了後6ヵ月、1年、2年、3年経過者である。

【内訳（転帰のみ抜粋）】

	発送数	回答数	回答率	転帰			
				復職	休職	離職	再就職
6ヵ月後	17	12	71%	11	1	-	-
1年後	16	10	63%	10	-	-	-
2年後	12	6	50%	5	1	-	-
3年後	16	11	69%	5	2	-	4

④リワーク準備コース説明会

リワーク準備コースの広報、及び利用者拡大を図ることを目的に当センター内で開催している。周知方法は市政だよりの掲載、医療機関・市内関係各所への開催案内の送付である。

<実施状況>

1. 平成 29 年 6 月 20 日 参加者 3 組 6 名（うち年度内に通所へつながったもの 2 名）
2. 平成 29 年 10 月 31 日 申込者 1 名のため個別の説明対応を行う。（うち年度内に通所へつながったもの 1 名）

3. 人材育成・教育研修

(1) 支援者及び関連機関担当職員を対象とした主催研修

①精神保健福祉基礎講座（初任者研修）

目的：精神保健福祉関係機関の初任者を対象に、地域精神保健福祉活動の実践に関する
 全般的かつ基本的な知識を提供し、資質向上を図るための技術支援を行う。

対象：精神保健福祉業務に携わる市及び関連機関の職員（概ね経験3年未満）

開催日時	内容及び講師	参加人数
H29年5月24日(水) 10:00～17:00 会場： 福祉プラザ1階 プラザホール	講話1「精神疾患の理解」 精神保健福祉総合センター主幹 河田祐子 講話2「精神疾患の理解～当事者の立場から」 障害者支援課所属ピアサポーター1名 講話3「地域移行、地域定着について」 障害者支援課 佐藤健太郎 精神保健福祉総合センター 主任 君市祐子 講話4「当事者との出会い方～面接・電話の基本～」 東北福祉大学准教授 准教授 志村祐子氏	95
H30年2月9日(金) 13:30～16:30 会場： 障害者総合支援セン ター2階研修室1	講話とグループワーク 「支援者としてのステップアップのために～半年間 の自分の変化を振り返る」 東北福祉大学 准教授 志村 祐子氏	41

勤務年数の少ない職員のフォローアップを目的に初任者研修を実施している。前期は基礎的な知識の理解から面接・電話等の実践の基本を学び、後期は前期の受講後のステップアップをフォローする内容で研修を構成している。初任者だけでなく、勤務年数のある参加者も受講するなど、受講人数は年々増加傾向であり精神保健福祉関係機関に携わる職員の初任者研修として定着してきている。

②精神保健福祉担当実務者研修

目的：各区の精神保健福祉新任担当職員を対象に、提供するサービスの内容や質の
 維持・向上を図るため研修を行う。

対象：各区障害高齢課障害者支援係職員

開催日時	内容及び講師	参加人数
H29年5月9日(火) 10:00~15:00 会場： 市役所5階 第2会議室	講話1 「精神障害者保健福祉手帳・精神通院医療の 事務処理」 精神保健福祉総合センター 黒田智子 講話2 「医療保護入院等、精神医療審査会関係業務の 事務処理」 精神保健福祉総合センター 鈴木とも子 講話3 「措置入院にかかる緊急対応業務」 障害者支援課障害保健係 佐藤 健太郎 講話4 「移送制度にあたっての実務と対応」 障害者支援課障害保健係 佐藤 健太郎	19

③思春期問題研修講座

目的：思春期の事例に関わる教職員や関係機関職員らに対し、思春期精神保健に関する基本的な知識を提供する。

対象：思春期の事例に関わる教職員や関係機関職員

会場：仙台市中小企業活性化センター セミナー室(2)

開催日時	内容及び講師	参加人数
H29年9月20日(水) 14:00~17:00	テーマ 「精神的な問題を抱える家族がいる子どもへの支援」 講師：NPO法人 ぷるすあるは 北野陽子氏（医師） 細尾ちあき氏（看護師） 内容： ・精神的な問題を抱える家族が思春期の子どもへ与える影響 ・その子どもに必要なサポート ・精神的な問題を抱える家族への対応のポイントなど 【第一部】対話形式の体験談 【第二部】講話およびグループワーク	68

アンケートの結果から参加者の満足度は高く、「支援に役立つ」との回答が多かった。また、グループワークについて、「考えを整理することができた」「他職種の話聞いて良かった」と好評であった。その他「子どもの視点を考えることができた」「親の支援が重要」「具体的なツールを知れて良かった」等の感想が聞かれ、子どもに関わる立場、家族に関わる立場、それぞれの支援者にとって視野を広げる気づきが得られた研修となったと思われる。

④その他の主催研修（詳細は各事業ページに掲載）

事業名	研修内容	参加人数
地域総合支援事業 (P.65)	地域移行関連研修会の実施 (日本精神科看護協会宮城県支部と共催)	41名
地域総合支援事業 東日本大震災後 こころのケア (P.71)	震災後心のケア従事者研修会 & 情報共有会 (障害者支援課主催)	7回 延 239名
	震災後心のケア支援事業担当者研修会	42名
	災害時メンタルヘルス研修会	42名
自殺予防情報センター（こころの絆センター）(P.76)	自殺対策ゲートキーパー養成講座	83名
	地域自殺対策研修講座	65名
依存症関連事業 (P.81)	アルコール（薬物）問題研修講座	54名

(2) 講師派遣依頼による研修（※詳細は各事業ページに掲載）

事業名	研修内容	依頼元	参加人数
依存症関連事業 (P.83、84)	アルコール・薬物問題高校生講演会	市内高等学校3校	高校生 計 829名
	酒害相談研修講座	東北断酒連合会・ 宮城県断酒会	当事者・家族 50名
思春期・ひきこも り関連事業	スキルアップ研修	教育局健康教育課	市立学校養護 教諭 100名
	学校保健・地域保健連絡会議 (思春期保健分野)	宮城総合支所 保健福祉課	市立学校養護 教諭 23名
	青少年部会研修 「悩みを抱える若者への対応」	民生委員児童委員協 議会	民生委員 68名
その他	働く職場のメンタルヘルス について	市健康福祉事業団 訪問調査課	介護保険認定 調査員 60名
	仙台豊齢学園 「こころの健康づくり」	市健康福祉事業団	豊齢学園入校 者 100名
	精神保健研修会	宮城県精神障がい者 家族連合会	家族 15名

	各区精神障害者家族教室	各区障害高齢課	家族 計 72 名
	生活保護新任現業職員研修	健康福祉局保護自立 支援課	保護課職員 47 名
	新任総合教育	宮城県消防学校	学生 102 名
	職場のメンタルヘルス	宮城野消防署	消防署職員 50 名

4. 技術援助・技術指導

(1) 保健所及び関係機関に対する技術援助

	保健所	学校 関係	障害者 支援施設	病院 関係	その他	計
社会復帰	35	0	132	35	7	209
アルコール関係	21	0	0	0	0	21
思春期	10	0	0	1	34	45
被災者支援	290	10	0	0	0	300
学生教育実習	0	48	0	0	0	48
精神科病院実地指導	0	0	0	0	17	17
その他	33	0	0	0	18	51
計	389	58	132	36	76	691

(2) 仙台福祉事業所合同説明会

通所に関心はあるが一步を踏み出せない病気や障害を持つ方の社会復帰を促し、精神保健福祉分野のネットワークを構築する目的で、平成 21 年度から実行委員会を立ち上げ「作業所見学ツアー」を実施してきた。その中で、委員会より「より多くの方に、多くの福祉事業所を知ってもらいたい」という声上がり、平成 26 年度より、市内障害福祉事業所が集まりブース形式で事業所の紹介を行う、仙台市福祉事業所合同説明会を開催している。合同説明会には、精神保健福祉分野にとどまらない支援団体・事業所の参加・拡充が図られ、知的・身体・難病を含めた様々な障害等を持つ方が来場している。当センターは、福祉事業所から構成される実行委員会の事務局を担い、活動をバックアップしている。

日時：平成 29 年 7 月 7 日（金）10:00～15:00

場所：仙台福祉プラザ 1 階プラザホール 運営／ブース参加団体：30 団体

来場者：259 名

平成 29 年度仙台福祉事業所合同説明会参加機関一覧（順不同）

アイエスエフネットライフ仙台、アビリティーズジャスコ仙台センター、アミークスカレッジ仙台、あしあと、いずみ授産所、オルタハ乙女、NPO 法人シャロームの会、株式会社イノセント、株式会社フライズ、工房すびか、仙台メンタルヘルスサービス、Schale おおまち、障害福祉サービス事業所もぐもぐ、就労支援センターほっぷ、就労移行支援事業所アドバンス、就労支援センターグッジョブ、ぱれった・けやき宮城野、スイッチ・センダイ、就労支援センターひゅーまにあ仙台、就労支援センターひゅーまにあ仙中央、就労支援センターひゅーまにあ広瀬川、すていじ仙台、スパーツ長町、すまいるライフ、長町遊楽庵びすた〜り、びすた〜りフードマーケット、LITALICOワークス仙台青葉、LITALICOワークス仙台泉、manaby 二日町事業所、ほっとハート、ほっとファーム、みどり工房永和台、れいんぼう倶楽部、エコ療育園相談支援事業所ういず・ゆう、障害者相談支援事業所くにみ、相談支援センターほっぷの木、相談支援事業所ねくすと国見、障害者相談支援事業所マリアージュ仙台、障害者相談支援事業所るーぶ仙台、宮城障害者職業センター、仙台市障害者就労支援センター、仙台市難病サポートセンター、仙台市精神保健福祉団体連絡協議会、障害者総合支援センター、南部発達相談支援センター

(3) 関係機関主催の会議参加による技術援助

自治体または関連機関で主催する会議に参加した実績は以下のとおりである。

(※詳細は各事業ページに掲載)

主要な会議内容	詳細	件数 (回)
仙台市自立支援協議会	各区自立支援協議会 相談支援事業所連絡会への参加	50
	本会議・部会会議への参加	14
自殺対策関連 (P. 80)	自殺対策連絡協議会	2
	自殺総合対策庁内連絡会議	2
	かかりつけ医等心の健康対応力向上研修企画委員会	1
医療観察法対象者支援関連 (P. 69)	医療観察法適用者ケア会議	42
	宮城県医療観察制度運営連絡協議会	1
地域移行関連 (P. 67～68)	精神障害者のための地域移行推進連絡会	12
	チーム医療委員会	9
依存症関連 (P. 81～84)	薬物依存のある保護観察対象者に対する地域支援 連絡協議会	1
	薬物ネットワーク連絡協議会	3
	薬物中毒対策連絡会議	1
	アルコール問題対策連絡会議	1
被災者支援関連 (P. 71～75)	被災者支援ワーキンググループ	23
	各区被災者ケースレビュー	35
	被災者支援連絡調整会議 他	6
	仙台市児童生徒のこころのケア推進委員会	2
ひきこもり関連 (P. 85～87)	ひきこもり支援連絡協議会	8
その他	仙台市障害者施策推進協議会	7
	仙台市精神保健福祉審議会	2
	仙台市障害児就学支援委員会	5

	仙台市発達障害児教育検討専門家チーム	6
	仙台市認知症対策推進委員会	2
	障害者相談支援体制あり方検討会	7
	障害者差別・虐待防止連絡会議	2
	宮城総合支所学校保健・地域保健連絡会議	1
	若林区健康調査報告会	1
	特別支援教育推進資料編集委員会	5

5. 組織育成

(※詳細は各事業ページに掲載)

事業名	内容
自殺対策予防関連	若年層対象普及啓発活動 ボランティアサークル「YELL」
アルコール・薬物関連	アルコール問題対策連絡会議

6. 普及啓発

(1) 地域の健康まつり等への参加

日時	参加	内容
H29年 10月15日	若林区健康づくりフェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコールパッチテストの実施 (若:140名 宮:89名 いず:128名) ・パンフレット配布 ・はあとぽーと通信配布 ・パネル展示
H29年 10月29日	宮城地区まつり	
H29年 11月12日	いず☆ちゅう健幸祭	

(2) 広報活動

① 広報紙「はあとぽーと通信」の発行

発行	主な内容
<第54号> H29年10月15日発行	<ul style="list-style-type: none"> ・特集「はあとぽーと仙台ではこんなことをやっています！」 ・「こころの悩みについての相談」「震災後のこころのケア」他紹介 ・「イベント情報」 ・一時移転について
<第55号> H30年3月1日発行	<ul style="list-style-type: none"> ・特集「ストレスとの上手な付き合い方」 ・「こころの元気チェック」「ストレスへの対処法」 ・「ここまるのゲートキーパー講座」

② ホームページ作成

専用のホームページを作成し、広報及び普及啓発を行っている。来所相談、電話相談の案内や主催講座の案内などのセンター情報の広報のほかに、メンタルヘルス情報のページを作成し、精神保健福祉に関する正しい知識の普及と啓発を図っている。

③ こころの健康づくりキャラクター「ここまる」

平成24年に、仙台市こころの健康づくりキャラクターとして誕生した「ここまる」は、若年層のための自発予防啓発サークル「YELL」の参加学生らによってプロフィールが加えられた。自殺予防週間ポスター、災害時地域精神保健福祉ガイドライン、各種リーフレット、啓発グッズなど、仙台市におけるこころの健康に関する啓発に、センターの内外を問わず活躍している。



仙台市こころの健康づくりキャラクター
つなぐま科「ここまる」

(3) その他の普及・啓発活動（※詳細は各事業ページに掲載）

- ・長期在院者に対する地域移行支援の啓発
- ・ホームページに災害時メンタルヘルスや仙台市災害時地域精神保健福祉ガイドラインに関する情報を掲載
- ・若年層を対象とした自殺予防対策普及啓発活動ーボランティアサークル「YELL」

7. 精神保健福祉相談

(1) 精神保健福祉相談の概況

当センターでは、前身となる昭和 27 年の小児精神衛生相談所（ベビーホーム）開設以来、昭和 31 年開設の精神衛生相談所、昭和 58 年のデイケアセンター、平成 9 年の精神保健福祉総合センターと組織を改編しながら、精神保健福祉に関する相談を継続して実施してきている。

相談内容は心の健康に関するものから、アルコール、薬物、思春期に関するものなど多岐に渡り、幅広い層の市民からの相談に、多職種が在籍する専門機関としての特徴を生かし、来所、電話、訪問、他機関との連携等の支援手法を用い対応している。

(2) 精神保健福祉相談状況

①相談状況（実績）

ア. 相談者数

来所相談		電話相談(延数)			訪問指導(延数)
新規実数	再来延数	はあとライン	ナイトライン	所内電話相談	
299	1,430	2,268	8,240	982	429

イ. 新規相談来所経路

直接	医療機関	各区保健福祉センター	児童相談所	学校	その他
175	25	8	2	19	70

ウ. 集団療法等の実施状況

集団療法等	回数	参加実人数	参加延人数
アルコール家族ミーティング	33	27	90
ひきこもり家族グループ	12	25	133
ひきこもり当事者グループ	23	6	52
合計	68	58	275

エ. 新規相談の主訴別状況

主訴項目	実人数
行動上の問題(ひきこもり、暴力など)	104
精神的悩み(ゆううつ、イライラなど)	71
学校不適應(不登校など)	36
家族関係(育児、夫婦関係など)	58
地域職場不適應(地域での対人関係など)	26
物質依存(アルコールなど)	4
合計	299

(3) 電話相談の状況（再掲）

①はあとライン（日中帯の電話相談事業）

開設時間帯は、月曜～金曜の午前10時から12時および午後1時から4時までである。

（金曜午前10時から12時は精神科医対応）

ア. 相談者性別

男性	699
女性	1,431
不明	138
合計	2,268

イ. 相談者住所

青葉区	147
宮城野区	43
若林区	11
太白区	75
泉区	107
市内不明	304
市外	269
不明	1,312
合計	2,268

ウ. 相談者年代

10代	49
20代	87
30代	191
40代	205
50代	161
60代	42
70代	22
80代	26
90代	0
不明	1,485
合計	2,268

エ. 相談内容別

老人精神保健	27
社会復帰	23
アルコール	15
薬物	2
ギャンブル	2
思春期（青年期・20歳未満）	46
こころの健康づくり（20歳以上）*	1,681
うつ・うつ状態	55
摂食障害	2
てんかん	0
その他	415
合計	2,268

*こころの健康づくり（20歳以上）の内訳

被害妄想的な訴え	80
精神障害ではないかとの訴え	27
精神障害の治療の問題	122
対人関係についての悩み	218
生き方についての悩み	105
仕事・職場についての悩み	203
夫婦関係等家庭内の悩み	206
心氣的・身体的訴え	69
抑うつ的な訴え	330
医師による相談・セカンドオピニオン	158
その他	163
合計	1,681

②ナイトライン（夜間・休日帯の電話相談事業）

開設時間帯は、年中無休で午後 6 時から午後 10 時までである。

特非）仙台市精神保健福祉団体連絡協議会へ委託し実施している。

ア. 相談者性別

男性	3,593
女性	3,116
不明	1,531
合計	8,240

イ. 相談者住所

青葉区	242
宮城野区	281
若林区	17
太白区	711
泉区	923
市内不明	1003
市外	927
不明	4,136
合計	8,240

ウ. 相談者年代

10代	10
20代	83
30代	831
40代	1,680
50代	782
60代	164
70代	108
80代	2
90代	0
不明	4,580
合計	8,240

エ. 相談内容別

老人精神保健	7
社会復帰	13
アルコール	5
薬物	1
ギャンブル	5
思春期(青年期・20歳未満)	11
こころの健康づくり(20歳以上)*	3,216
うつ・うつ状態	71
摂食障害	13
てんかん	0
その他	4,898
合計	8,240

*こころの健康づくり(20歳以上)の内訳

被害妄想的な訴え	47
精神障害の治療の問題	34
対人関係についての悩み	649
生き方についての悩み	214
仕事・職場についての悩み	478
夫婦関係等家庭内の悩み	405
近隣とのトラブルについて	29
心氣的・身体的訴え	137
抑うつ的な訴え	154
強迫的な訴え	25
その他	1044
合計	3,216

(4) ケース会議

相談業務におけるケースへの対応を講師に迎えて検討し、日常の業務に活かすことを目的としている。今年度は年間計9回にわたりケース会議を開催し、職員の力量向上に努めた。

◎講師：東北大学大学院教授 加藤 道代氏
東北福祉大学准教授 志村 祐子氏
岩手医科大学教養教育センター助教 藤澤 美穂氏

開催日	検討分類
平成29年5月22日	“不安感”で行動を広げられない自分を責める相談者との面接
6月19日	相談・面接におけるいくつかの視点
8月18日	沈黙の多い面接を続ける相談者との面接
9月25日	希死念慮のある相談者への対応について
10月16日	“失敗すること”を恐れている相談者との面接
11月27日	「子をなんとかして」と来所がスタートした親との今後の面接
12月12日	本人のことを心配しているものの、協力しあえない両親との今後の面接
平成30年1月22日	アルコール使用障害がある配偶者の相談で来所している相談者への支援について
2月19日	摂食障害の改善を望む相談者との面接